

職場体験学習「チャレンジウィーク」

五十嵐 豊

1. はじめに

学習指導要領では、教育の質的な向上を図るために、様々な手立てが具体的に示されています。その一つに、「体験活動の充実」があります。これは、子どもたちの社会性や豊かな人間性を育むために、その発達段階に応じた体験活動を充実させていこうというものです。

異世代間の日常的な交流が減少し、世代を超えて受け継がれるべき固有の伝統や技術が失われつつある昨今、人と人との関わりを通して、学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させることができる「生きた学びの場」としての職場体験学習の重要性は、ますます高まっています。

このような考え方を背景に、藤岡市の職場体験学習「チャレンジウィーク」がどのように実施されているのか、紹介したいと思います。

2. 藤岡市の子どもは藤岡市で育てる

チャレンジウィークは「地元の子は地域全体で育てる」という趣旨の下、「生きた学びの場」を地元の子どもたちに提供すべく、学校と地域の事業所との連携協力により実施されています。

具体的には、市内中学2年生全員が、9月初旬の連続する5日間に、藤岡市を中心とする地域の事業所において体験活動を行います。

本事業における生徒の活動は、農業等の勤労生産活動、製造・販売・サービス業・教育・公共施設等での職場体験活動の他、社会福祉施設・介護施設等での福祉体験活動、公共施設・デイサービス等のボランティア活動、遺跡発掘・文化財や民俗資料の管理等の調査研究活動など、市内で実施可能な様々な職種で行われています。

市内中学生一人一人が、地域の中で主体的に体験活動を行うことを通して、自分の将来に向け夢や希望を持ち、進んで自分の生き方を見つけるとともに、地域に学び、共に生きようとする心や、感謝の心、自立心を養います。また、地域に根ざした職業や長年守られてきた伝統ある職業を体験することで、社会の中で貢献することの意義や伝統を守り受け継ぐことの重要性を実感することもできます。地域が育てる子どもがやがて、地域を育てる存在となっていくのです。

3. 学校と事業所との連携協力による事前学習の充実

チャレンジウィークに先立って各中学校では、社会人としての心構えを学び職業意識を高めしていくことを目的として、「マナー教室」や「社会人に学ぶ会」などを実施します。これらの事

前学習も、地域の事業所との連携協力によって行われています。

「マナー教室」では、事業所で社員教育を担当されている方々を学校に招き、現場の社員教育しながら、仕事をする上での心構えや、社会人としての常識、立ち居振る舞い、マナー全般について、指導していただきます。生徒は、身だしなみ、礼の仕方、座り方、電話対応など、実際の場面に応じて実習することを通して、社会で働くことの厳しさを実感しながら、働くために必要な心構えを学びます。

「社会人に学ぶ会」では、受入事業所としてもお世話になる地元企業の経営者や社員の方から、仕事の体験談や長年携わってきた仕事に対する思いなどを直接聞かせていただきます。「社会人に学ぶ会」は、職業による職業観の違いや仕事の在り方について考えるきっかけとなるだけでなく、これからの自己の生き方について深く考えていく手がかりにもなります。また、地元で活躍する方々から話を聞くことで、地域産業への興味・関心を高め、故郷のよさを再確認することにもつながります。

4. 市内全中学校による一斉実施

本市の職場体験学習の特徴の一つとして、市内全中学校が同時期に一斉に実施するという点も挙げられます。それまで、市内各中学校がそれぞれ独自に行っていた職場体験学習を、平成13年、同時期に全中学校一斉実施による「藤岡市チャレンジウィーク」として統一してから、今年度で15年目を迎えています。

職場体験学習を全中学校が一斉に行うことで、各中学校区内では対応できない職種の事業所を、複数の学校で「共通事業所」として共有することが可能となり、生徒たちの多様な希望に対応できるようになりました。現在10数か所ある「共通事業所」については、事業所と学校との連絡業務を各校で振り分け、窓口を代表校に一本化するなど、本事業に係る学校業務の効率化が図られています。

5. チャレンジウィーク推進協議会

地域における協力体制を確立するために、藤岡市教育委員会を事務局とした「チャレンジウィーク推進協議会」を設置しました。推進協議会は年3回開催され、学校と関係団体の代表者からなる推進委員がチャレンジウィーク全般について幅広く意見交換を行い、事業本体や協議会の支援体制について、定期的に改善を図っています。

推進協議会によるチャレンジウィークへの支援の一つとして、本事業に協力する関係諸団体との連携による、職場体験受入先の開発・確保があります。具体的には、市内約2800か所の事業所にアンケートを配布し、チャレンジウィークへの協力を広く市民に呼びかけるとともに、アンケートをもとに生徒を受入可能な事業所のデータベースを作成し、各校に提供します。また、藤岡市の広報誌等にチャレンジウィークの情報を掲載したり各種団体に協力を呼びかけたりするなど、本事業の啓発活動も積極的に行い、活動の趣旨について市全体に広く理解を求めています。

6. チャレンジウィークの成果

昨年度は200を超える事業所のご協力により、本市中学2年生約600名が貴重な経験をしました。5日間の体験活動を通して、生徒たちは、働くことの意義や目的を理解し、進んで働こうとする意欲や態度を身に付けることができました。また、職場で様々な経験を積み重ねていくことで、自分が役立つ存在であることを知るとともに、自分の個性や適性を把握し、自己理解を深めることもできました。

事後に、各校で行った生徒へのアンケート結果を見ると、チャレンジウィークを通して学んだこととして、「仕事そのもの」と同時に、「仕事に対する責任感」や「社会で働くことの厳しさ」を挙げており、仕事に真剣に取り組む体験を通して、働くことそのものを実感するだけでなく、仕事の意義もしっかりと理解していることが窺えます。

チャレンジウィークについての保護者や事業所職員の感想の中から印象に残ったものを以下に紹介します。

- * 「毎日自転車で遠くまで出かけ、疲れた表情で帰ってきました。ですが、眼は本当に輝いていて、良い体験をさせてもらっているのが伝わってきました。疲れてしまってあまり話もしないで寝てしまっていたのですが、朝しっかりと自分で起きてくる様子に、普段とは違う気持ちを見ることが出来ました。」(保護者)
- * 「働くことの大切さを学ばせていただき、親が働いていて大変なことも分かったようです。チャレンジウィーク後、今まで以上に手伝いをしてくれるようになったし、仕事から帰宅すると「おかえり」のあとに「お疲れ様」といってくれるようになりました。」(保護者)
- * 「職場が手薄になってしまう日があり、どうしようかと悩んでいたら、何も言われないうちに今まで教えた仕事をどんどんやってくれ、手薄と感ずることなく仕事が出来ました。まじめに取り組み、仕事を覚え、それをさりげなくやってくれたことに感謝しています。」(事業所職員)

本事業に関わった大勢の方々の丁寧なご指導と温かい励ましにより、生徒一人一人が着実に成長している姿がこうしたコメントからも見て取れ、改めて、この事業の果たす役割の大きさを実感しています。

7. おわりに

藤岡市では、子どもたちが将来の自分の生き方を見つめる重要な取り組みとして、長年にわたって職場体験学習「藤岡市チャレンジウィーク」を実施し、県内の先進地区として「体験活動」「キャリア教育」の推進・充実を図ってきました。そこには「地域に学び共に生きようとする」心を育む子どもの姿があり、それを支えるのが学校と地域との積極的な連携であると考えます。本市の取り組みが、学校・地域が一体となったキャリア教育推進の一つのモデルとして、先生方の参考となれば幸いです。

(前 群馬県藤岡市教育委員会)